

# 「独眼竜政宗」の本拠・仙台城を歩く

平成27-9-29、30 山岸弘明

## 1) 主要スケジュール

\*第1日(9月29日)

7時44分

東京駅東北新幹線20番線

「やまびこ205号」仙台行き1、2号車(最後尾)など乗車

白石(しろいし)蔵王降車、改札口集合、貸し切り仙台バス乗車

9時52分

白石城(90分)車中昼食

10時30分~12時00分

岩出山城(75分)

13時30分~14時45分

多賀城(75分)

5時45分~17時00分

ホテル着、18時30分宴会

17時35分

\*第2日(9月30日)

8時00分

ホテル出発

8時30分~10時30分 仙台城(120分)

10時45分~12時00分 瑞鳳殿(75分)

12時30分~13時30分 鐘崎笹かまぼこ館(昼食)、仙台七夕飾り(60分)

東日本大震災被災復興地区ゆりあげ

15時30分~16時30分 大崎八幡宮(60分)

17時30分

仙台駅着、解散

## 2) 当面の行事計画

①11月定例会(10月30日=予備日11月5日)都内・板橋に中世の城を探る

\*都営地下鉄・赤塚線「志村三丁目駅」改札口集合

●主要行程=志村城、赤塚城、板橋区郷土資料館、東京大仏

②12月定例会「北武蔵の名城と和紙文化発祥の地をバスで訪ねる」=参加申し込み受け付け中

\*主要行程=鉢形城、川越館、世界遺産和紙の郷

③1月の定例会(1月23日、開宴12時00分)新年のつどい

\*銀座ライオンビル6階「銀座クラシックホール」=中央区銀座7-9-20

## 奥州の覇者への道のり~伊達政宗年表

1567 永禄10年 米沢城主伊達輝宗長男に誕生。幼名梵天丸

1571 元龜2年 天然痘で右目を失明

1672 3年 資福寺虎哉宗乙住職に師事

1575 天正3年 片倉小十郎が養育係となる

1577 5年 元服して藤次郎政宗を名乗る

1579 7年 三春城主の娘愛姫と結婚

1582 10、11年 父とともに相馬領を攻める

1584 12年 父隠居、家督を相続、奥州統一に意欲

1585 13年 大内氏を攻め小手森城で降伏者800人を虐殺

1589 17年 摺上原の戦い勝利で奥州南部を統一

豊臣秀吉から私戦禁止令違反とされるが無視

1590 18年 秀吉の小田原城攻めに様子見遅参

米沢城を没収され、岩出山城に移される

1592 文禄元年 朝鮮出兵のため名護屋出陣

1593 2年 釜山に上陸、普州城を攻める

1594 3年 秀吉の吉野の花見に同行

1595 4年 秀吉の自刃で謀反の嫌疑かかる

1599 慶長4年 徳川家康と接近、五郎八姫が松平忠輝と婚約

1600 5年 関が原の戦い、幻の100万石お墨付き

1601 6年 仙台城を築き、岩出山から土民や寺社を移す

1605 8年 家康江戸幕府開く、江戸に屋敷を与えられる

1606 9年 瑞鳳寺再建

1610 15年 仙台城大広間完成

1611 16年 宣教師が仙台を訪れ、布教を許可

1613 18年 支倉常長を団長とする遣唐使節団派遣

家康の命で娘むこ忠輝の高田城を築く

1614 19年 大坂冬の陣、長男秀宗宇和島10万石立藩

1615 元和元年 夏の陣参陣、豊臣家滅亡、正四位下参議叙任

家康逝去、病床で後事を託される

1616 2年 忠輝改易、五郎八姫戻さる

1626 寛永3年 秀忠、家光とともに参内、従三位中将叙任

1627 4年 秀忠、江戸上屋敷に式成御成り

1636 13年 死期に家光病床を見舞う、享年69歳

1637 14年 霊廟瑞鳳殿落成

ものごと、小事より大事は発するものなり、油断すべからず

政宗の人生訓=大きな事件は些細なことからおきる。日ごろから注意を怠ってはならない

曇りなき心の月をさきだてて 浮世の闇を照らしてぞ行く

政宗の辞世=暗闇のように先の見えない世の中で、おのれの心だけを頼りに歩んだ人生であった。

生き残るために自らの野望をあきらめ、天下人秀吉、家康に仕えざるを得なかった。つねに時代の

趨勢を見極めることが求められた政宗の胸中を詠っている

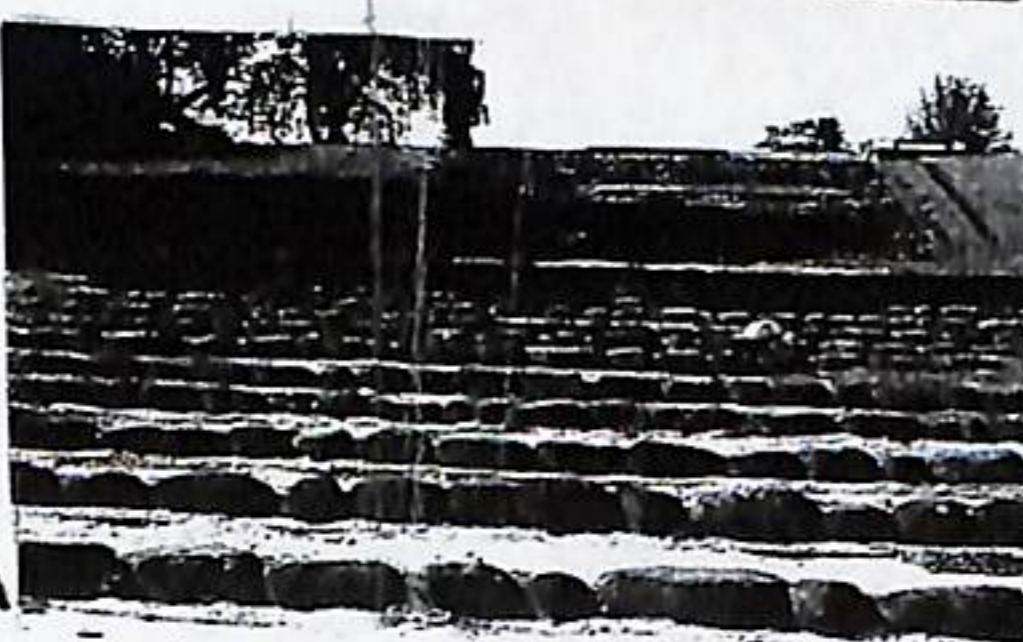
①白石城



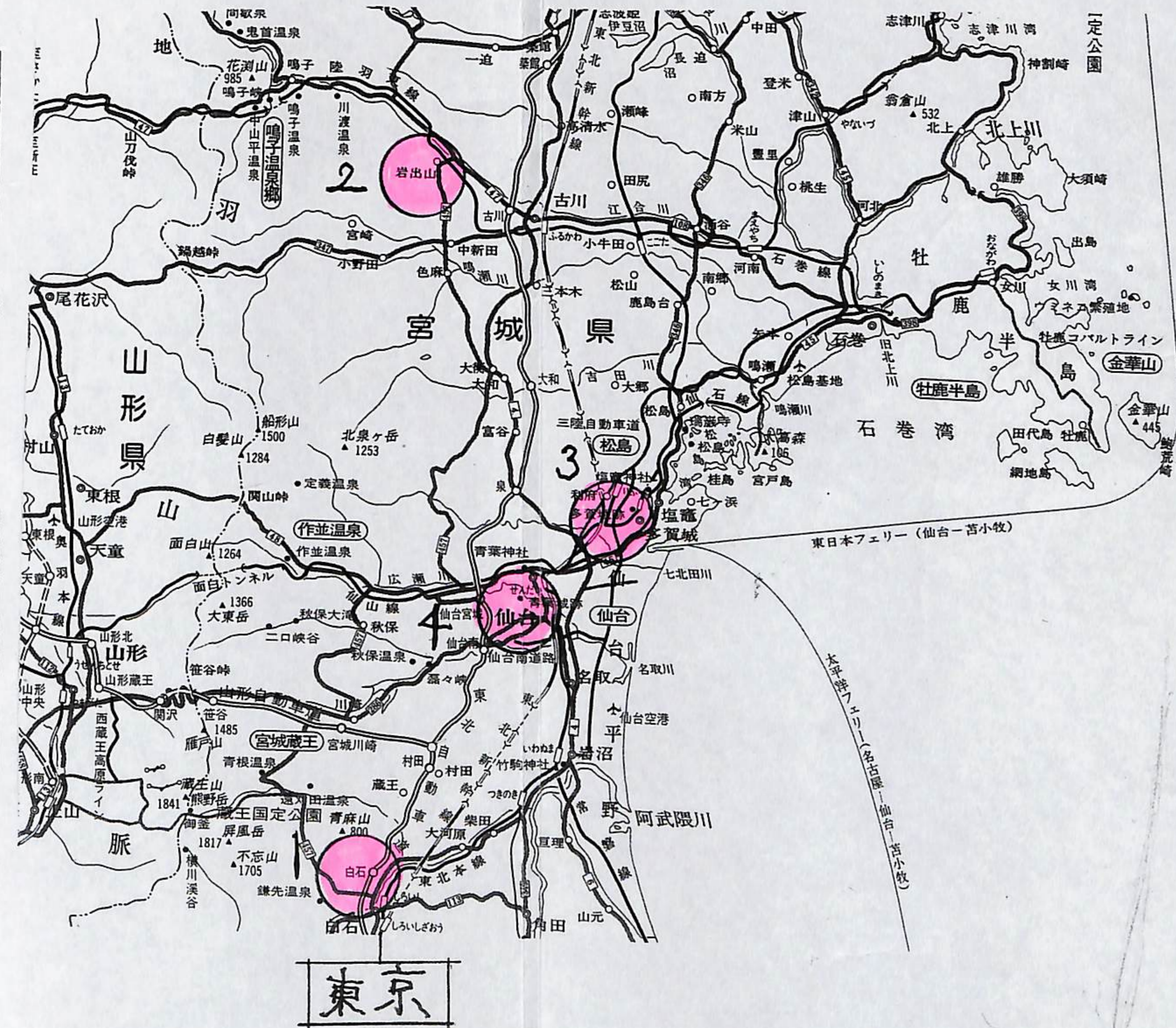
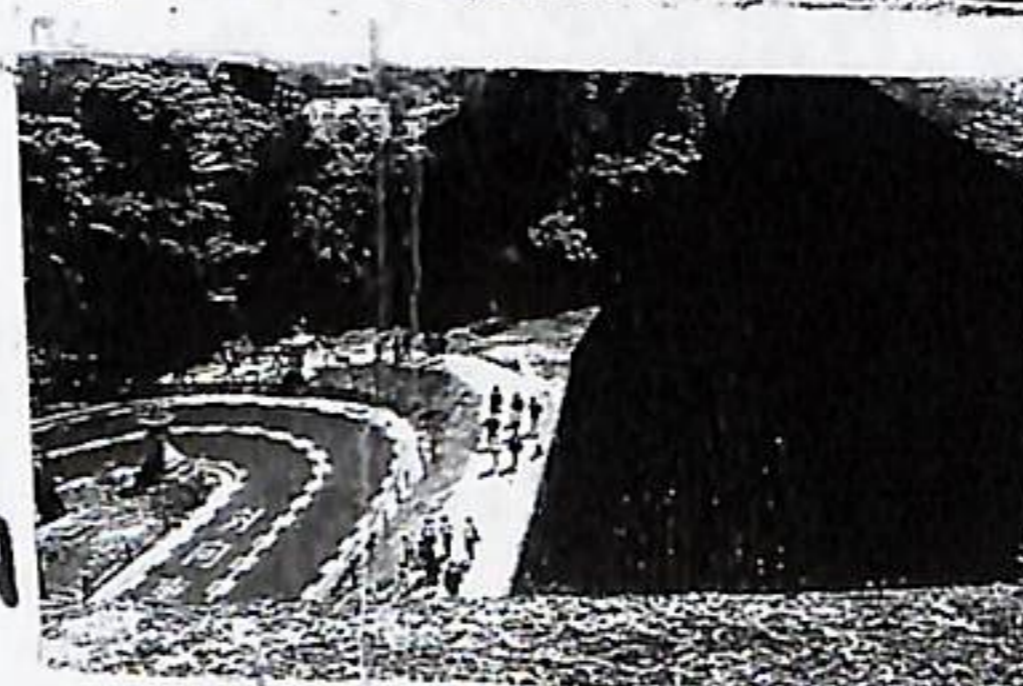
②岩出山城



③多賀城



④仙台城



【設備】  
 ●2周回転シート  
 ●衛生放送受信機  
 ●ナビゲーションシステム  
 ●シンセカラオケ  
 ●排ガス規制適合車有  
 ●TV(3機)  
 ●冷蔵庫  
 ●読書灯  
 ●タオルポット  
 ●湯沸 ●無線

仙台バス







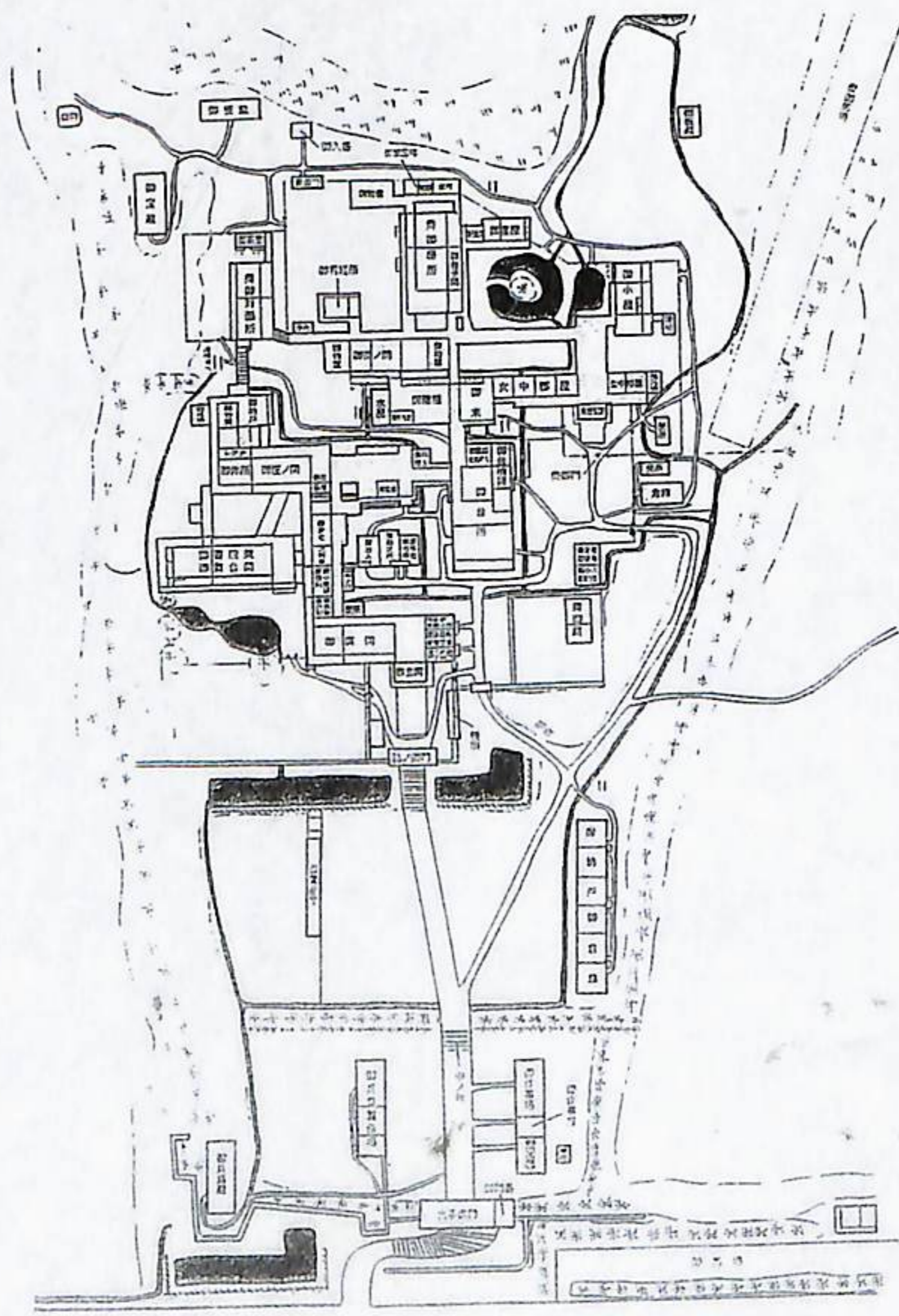
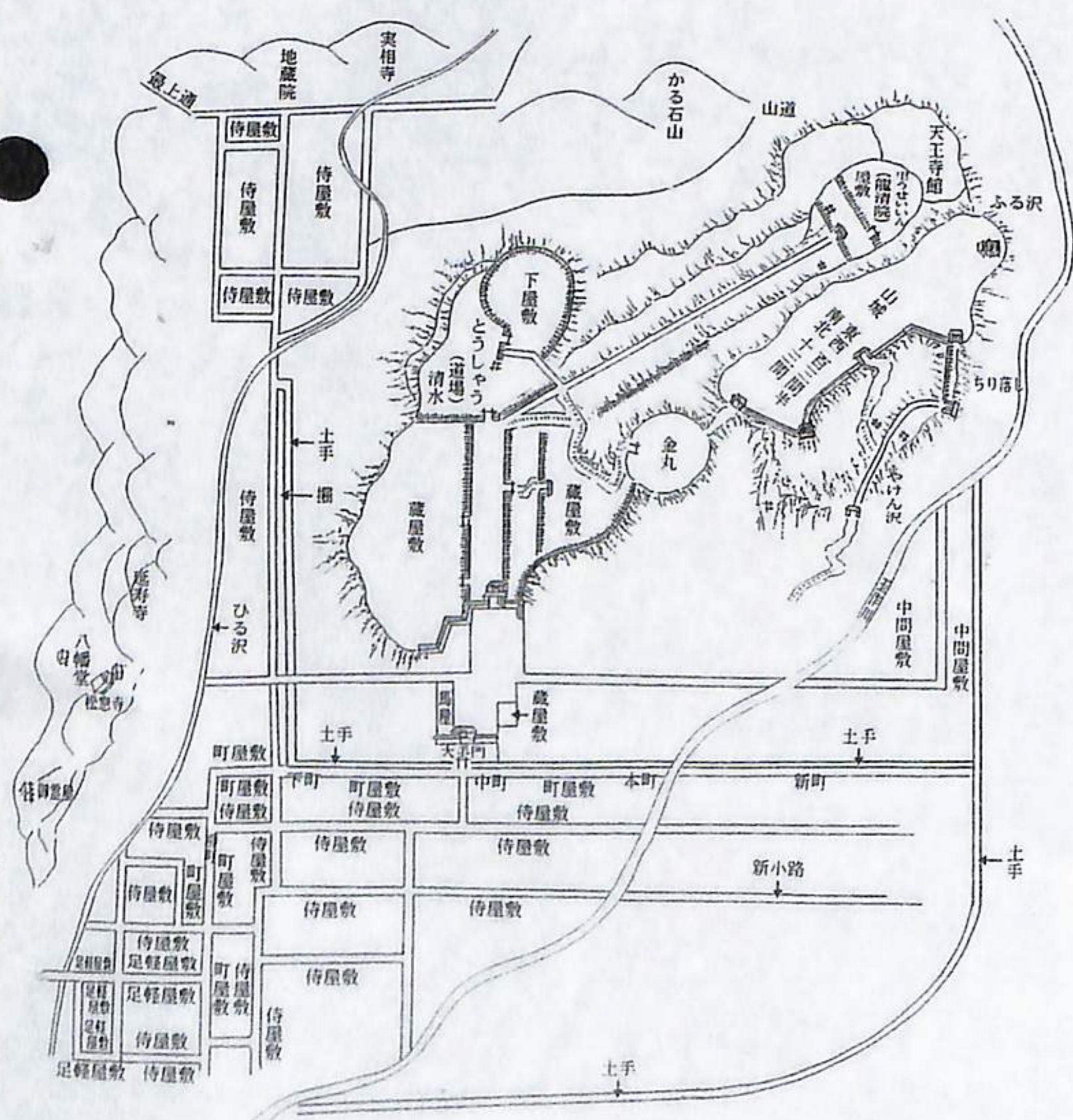
# この城に比ぶるはなし～断崖切り岸の岩出山城を歩く

## 1) 片倉小十郎の白石城から政宗青年期の居城・岩出山城へ移動

- ①東北新幹線「蔵王白石」降車、最初の見学地は白石城。チャーターの仙台バス乗車、挨拶もそこそこ、およそ5分で白石城跡の益岡公園に到着する。
- ②白石城は慶長7年、伊達政宗の重臣・片倉景綱(小十郎)1万3千石、伊達家支城として成立、「一国一城令」後も取り壊されず、例外的に「城」として扱われた。片倉家11代が居城としたが、明治維新の戦いで降伏、新政府軍に接收された。
- ③天守台、本丸、二の丸石垣や土塁、空堀などが現存、「お城山整備構想」の一環として平成7年に本丸「三階櫓」、大手一の門、二の門枡形渡り櫓門などが復元された。見どころは荒割り野ヅラ積み天守石垣と復元御三階など、「御三階」は層塔型移行期で大きく、高覧、廻り縁などに望楼型の特徴を残している。保科講師が担当します。
- ④白石から政宗青年期の居城岩出山城に移動。仙台北端から北端の守りへ、東北自動車道古川インター、国道47号線から江合川河岸段丘断崖絶壁の岩出山城へ。移動90分この間車中昼食、改めて開会式、行程説明、みどころ解説、仙台バスガイドさんの観光案内や東日本大地震当時の様子、復興ぶりなどに耳を傾けながら岩出山城をめざす。

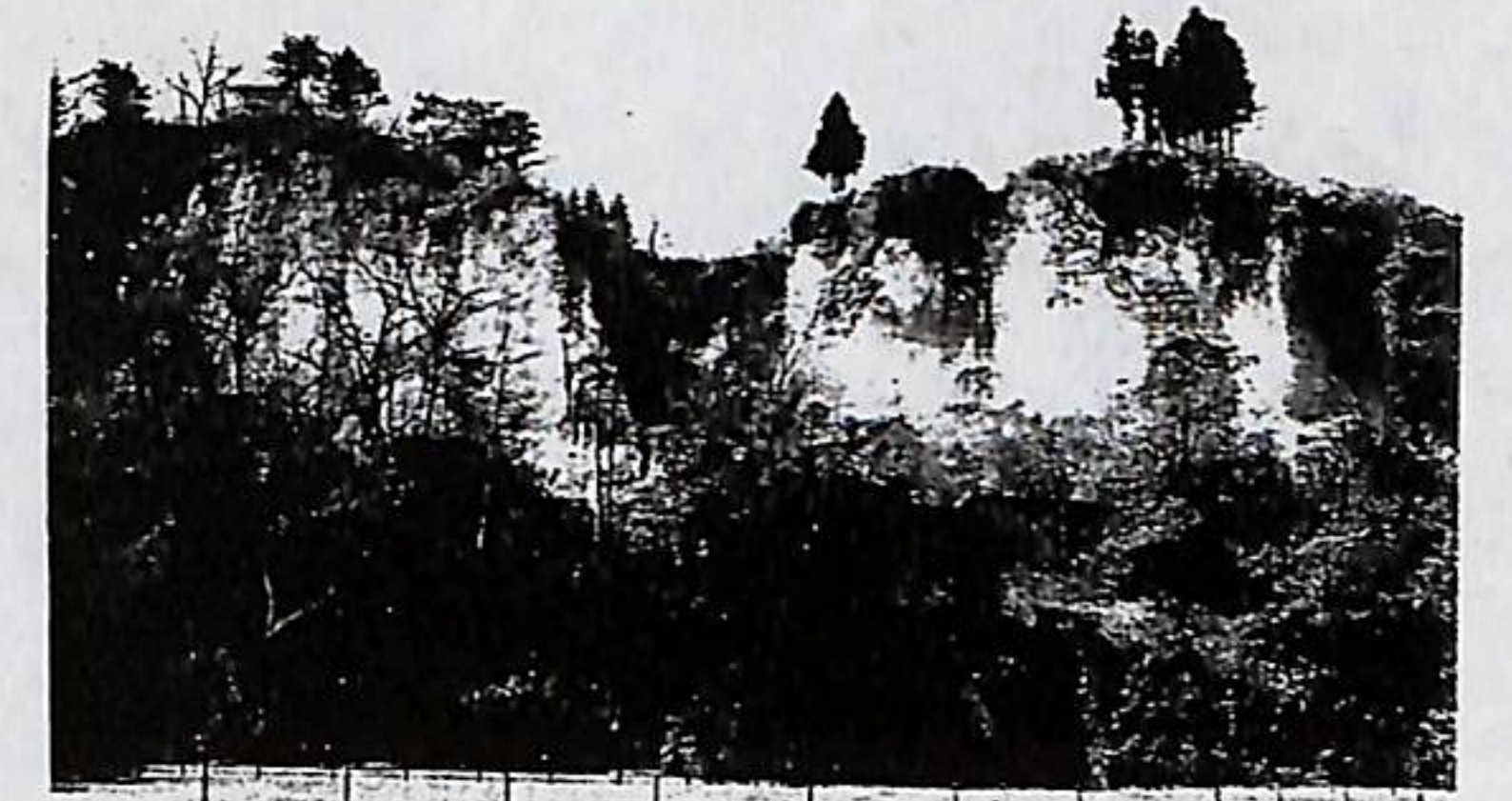
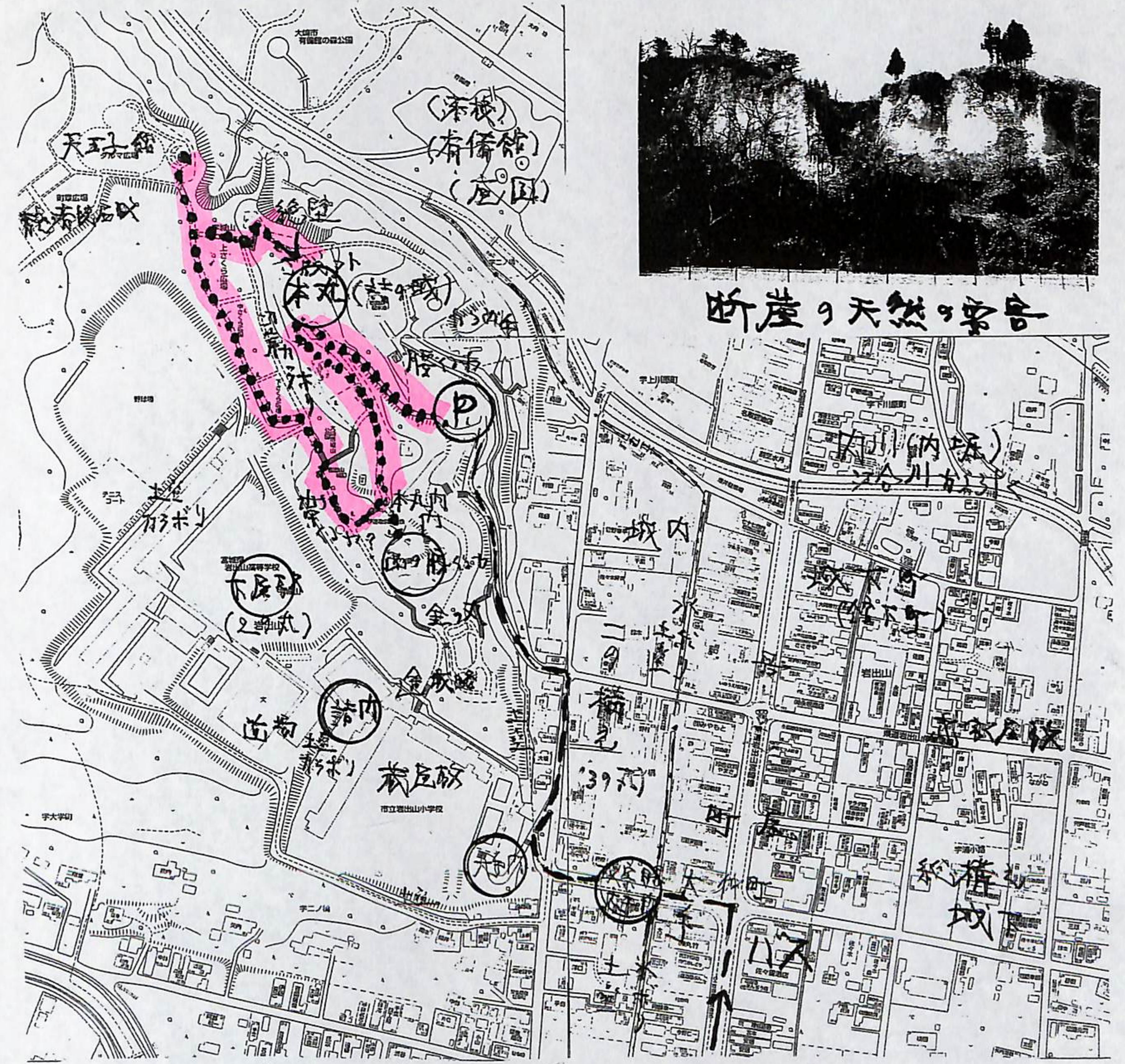
## 2) 政宗下屋敷は岩出山小学校と岩出山高校に～土塁など地形を俯瞰

- ①国道47号線とこれに並行して走るJR陸羽東線はむかしの最上街道で、山形県の最上地方、新庄へ続く。47号線を左にわかれ、JR線を越えるとまもなく大崎市の岩出山町市街へ。その昔「独眼竜」の異名をとどろかせた伊達政宗、青年期の居城・岩出山城下として繁栄、伊達家の仙台北端移転後の岩出山伊達家要害時代は館下町を云った。
- ②バスは中町交差点を左折、交差点は岩出山城の引き込み道で、50mほど入ったどぶ川はかつて土塁付き内堀跡とみられる。ここからが城内、政宗時代は豪壮な大手門を構えた。別掲江戸時代初期の岩出山城図に2階造り櫓門、枡形からなる大手門が描かれている。
- ③100mほど直進、正面の高台は現在岩出山小学校で奥に岩出山高校がある。小学校校門の登り坂が政宗時代の2の丸内門で、要害時代は大手門になった。2階造り櫓門で両側に続く土塁上



江戸中頃の岩出山要害絵図

岩出山御城内平面図



断崖の天然要害

岩出山城 案内コース

- にしっくりの土塀か多聞櫓が連なった。
- ④大手門の内側は2の丸で、小学校は蔵地、高校は政宗の下屋敷、城山の本丸は「詰め」の城と考えれば普段岩出山高校の地に起居したといえる。下屋敷はのち岩出山伊達家の御殿となった。
- ⑤政宗下屋敷の間取りなど詳細は不詳。しかし「岩出山町史」に明治43年元祐筆の「岩出山御城内平面図」(別掲)が紹介されている。表向きは玄関、広間、家老詰所、役職者詰所、書院、御座の間、私的部分に奥対面所、茶の間、奥座敷、奥向けは正室、奥女中部屋などとなっている。
- ⑥本丸、城山への登城路は2の丸蔵屋敷裏から金の丸をへて本丸に至った。
- ⑦残念ながら校内への立ち入りができず、あとで城山から俯瞰する。

## 3) 四方を断崖に囲まれた天険の要害～城山公園となった本丸に登る

- ①バスは観光用に設置された急坂を腰曲輪の「SL広場」の駐車場まで登る。古絵図はやげん沢、井戸などを記すからめ手で、本丸への連絡道にくさりをつけて厳しい断崖絶壁を強調している。
- ②SL広場から本丸へは徒歩、舗装されて登りやすい。
- ③本丸は東西103間、南北13間、絵図は天守と角櫓2基、2門を記す。現地に立つと四方を厳しい断崖に囲まれた天然の要害を実感。平坦に整備された本丸の周囲を土塁、櫓台が廻っている。地図看板で案内コースを確認、北半分に御殿群を描くが出典が不明瞭で確認できない。



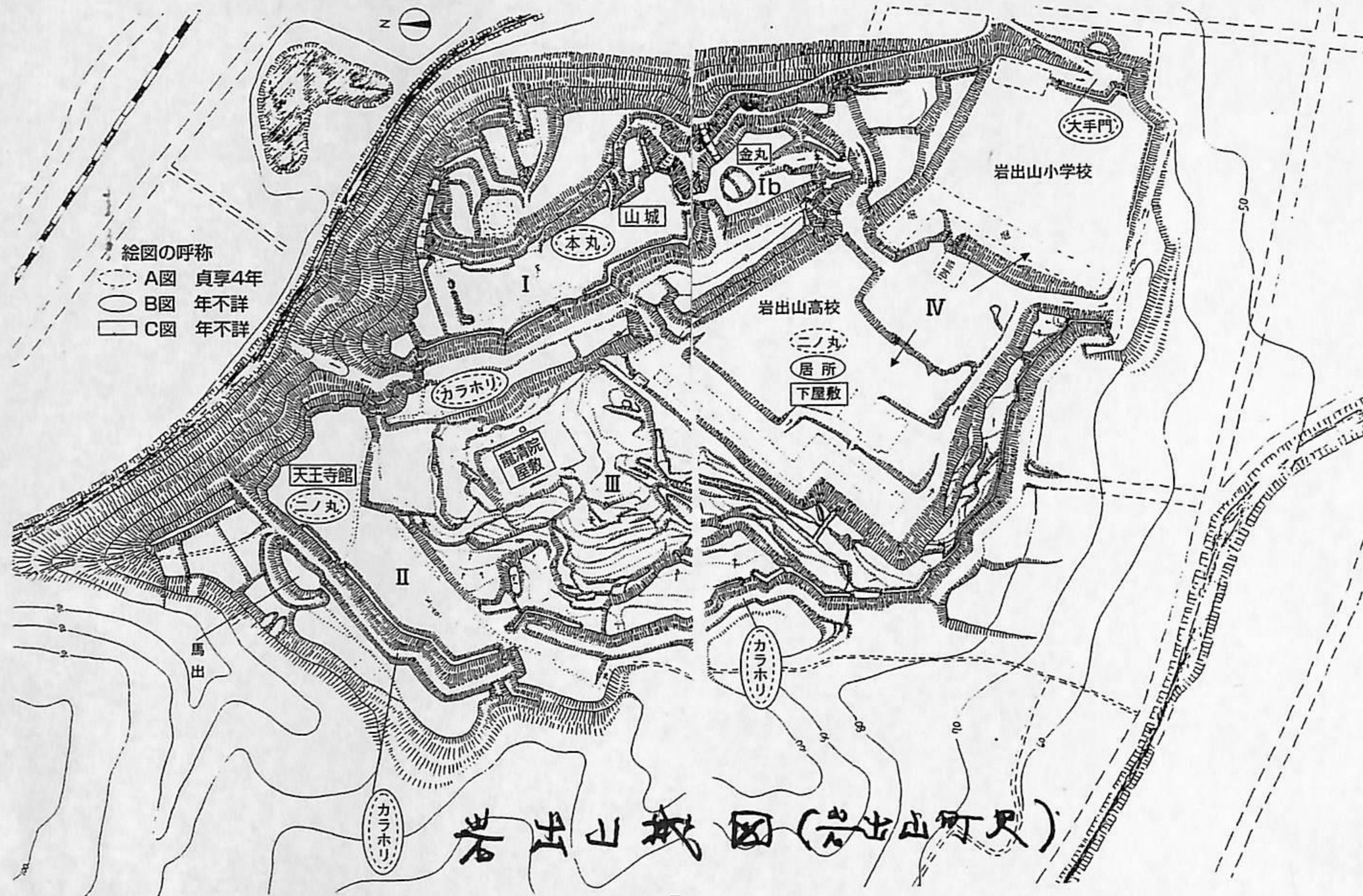
### 織豊から近世城郭へ～伊達政宗と忠宗が築いた仙台北

#### 1) 奥州千葉氏の千代城(館)にはじまるか

①仙台北創建者は伊達政宗だが、前身を奥州国分氏系・千葉胤通とする説がある。胤通はのちの仙台北本丸あたりに館を構え、千体仏を祭祀したため地名が「千代(せんだい)」となったという。しかし多くの本は書かず詳細は未詳といえる。

#### 2) 広瀬川河岸段丘の要害地～伊達政宗仙台北を築く

- ①慶長5年関ヶ原の戦功で新たに陸奥国内に2万石を加増された伊達政宗は、岩出山城が所領の北に偏りすぎていることから、奥羽街道に接し仙台北平野を控える宮城郡国分の千代、青葉山丘陵東端を新たな城地と定めた。
- ②城地は前面が広瀬川の河岸段丘の急ガケで、南は龍ノ口の溪谷、北は沢で遮られ、後ろは深い山林が連なる自然の要害地、と戦国の名残色濃い「戦いのための山城」、一方築城縄張りには「織豊城郭」を意識した「見せる、権威の象徴」の城でもあった。
- ③翌6年築城工事に着手、岩出山城から移転し、仙台北と改称、7年一応完成して15年には本丸御殿大広間も竣工した。天守台を築いたが家康をおもんばかって建物は上げず、3重櫓4基と2重櫓1基を立て、前面急ガケに懸け造りと呼ばれる展望台を設けて天守代用とした。
- ④大手門は豊臣秀吉拝領の元肥前名護屋城々門といわれる。広瀬川に大橋をかけて城下と結んだ。
- ⑤寛永4年、政宗は幕府に屋敷を新造することを願い出、許可される。5年11月工事は完成し政宗が入居した。のちの隠居城・若林城であった。政宗は国元にあるときここで過ごし、詩歌や茶に親しみ、川漁や鷹狩りを楽しんだ。寛永13年死期を悟った政宗は病いを押して江戸へ向かい、江戸屋敷において生涯を閉じた。
- ⑥寛永16年、2代忠宗は幕府許可をえて山麓に2の丸御殿を構築、以後本丸を詰めめの城とし、2の丸は藩主居館であり政庁の場となる。2の丸は平地に築かれた「平城」だが、山城と平城を合わせたという意味で、「平山城」に分類されることが多い。
- ⑦戊辰戦争の時、奥羽越列藩同盟の中心となって各地に出兵し明治元年9月降伏、藩主慶邦は謹慎、城は官軍に明け渡された。同年伊達亀三郎が相続、4年廃藩置県、6年の存廃令で存城となる。城地には仙台北鎮台が移転した。同8年本丸御殿は払い下げ取り壊され、15年鎮台本営として使用中の2の丸御殿が焼失、昭和20年の戦災で残った大手門、隅櫓なども焼失した。
- ⑧近年仙台北市は青葉山公園整備計画を策定、現在20年計画で城址周辺の整備を進めている。これまでに、本丸跡北面石垣、中門、清水門石垣などを修復、大手門脇櫓を再建、本丸大広間跡地が整備された。

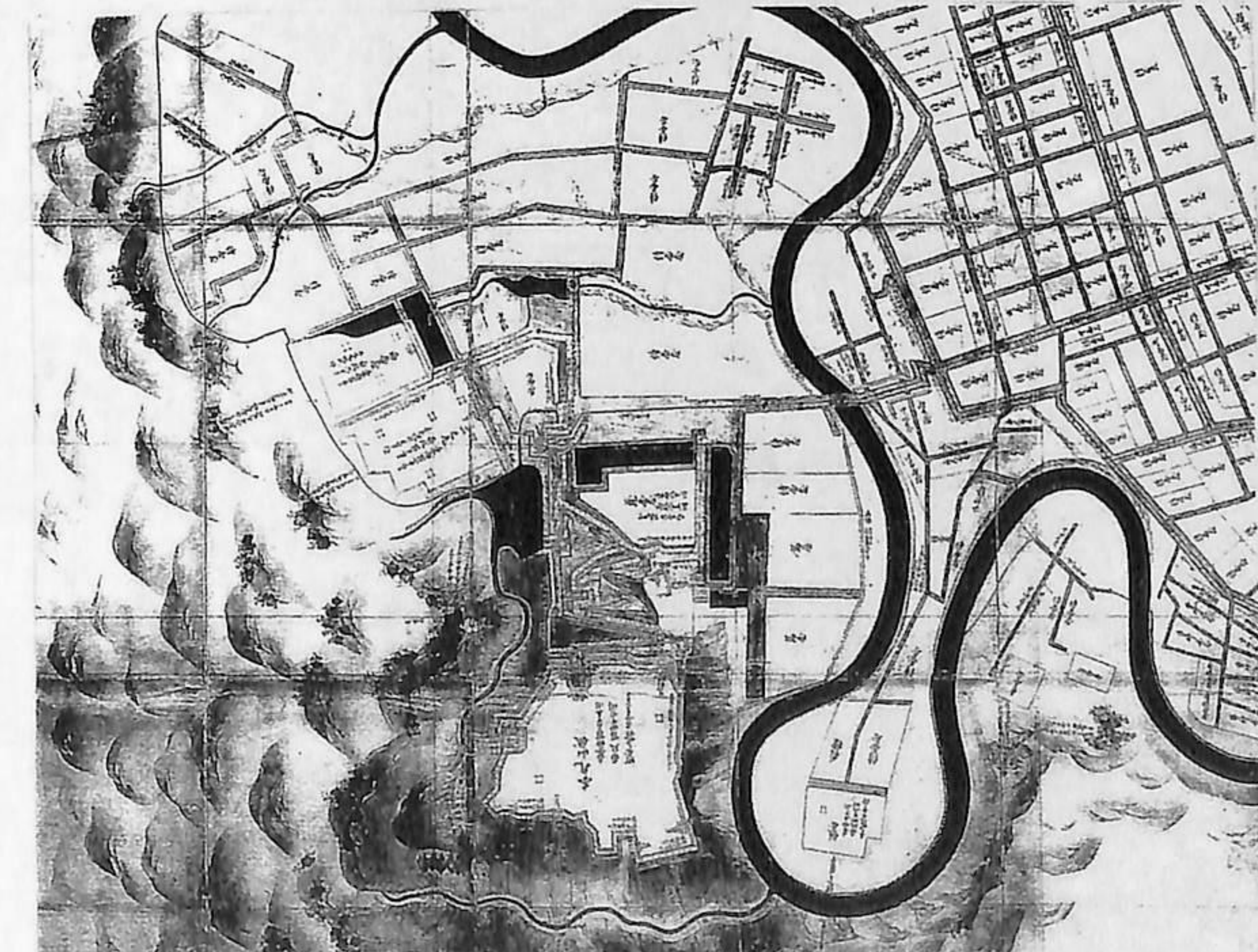


本丸

本丸にあり政宗立像

御殿跡

- ④本丸内門跡=2の丸から金の丸、西の腰曲輪をへた登城路の本丸正門。土塁に石垣を巻くが積み方が昭和的でいまいち納得できそうにない。
- ⑤西の腰曲輪=実際は南に立地、西の丸のイメージか。  
伊達政宗立像
- ⑥2の丸?帯曲輪=こども広場、下さくら広場、中広場、上広場。本丸を急ガケとするための切り岸、空堀がみられる。2の丸、政宗下屋敷、要害主御殿を俯瞰。
- ⑦天王子館=だるま広場、ふる沢、本丸展望台から江合川側を遠望。「この城に比ぶるはなし」と謳われた切り立つ断崖に難攻不落の堅城を実感する。
- ⑧眼下に藩校有備館と庭園を望む。  
有備館は江戸時代、岩出山伊達家の家臣子弟の学問所となった建物で、2代宗敏の隠居所として延宝5年に建造されたもので、その後下屋敷、隠居所をへて藩校となった。
- ⑨庭園は仙台北藩の茶道頭が作庭、岩出山の絶壁を借景とした本格的池泉回遊式庭園だが、今回はスケジュールの関係で遠望にとどめる。
- ⑩バスは次の見学地多賀城へ向かう。  
多賀城は日本最古の古代城柵で、奈良時代から平安時代にかけて陸奥国府や鎮守府が置かれ、東北地方の政治、文化、軍事の中心地として栄えた。保科講師が担当します。
- ⑪17時35分ころホテル着、宴会で明日への英気を養ってください。





⑩北面石垣を上からみる＝

本丸北面は大手道にあたり、比較的なだらかなことから嚴重な石垣を囲んだ。石材は三滝安山岩で、本丸からおよそ3～5kmはなれた大へた、ハナユスリ、国見峠、大石が原などで採取、広瀬川の沢に沿って仙台城へ運ばれたと推定されている。慶長6年の築城工事は1万個を超える石材が使用されており、輸送に領民の多くが動員された。当初石垣は野づら積みであったが、元和、正保期大地震で崩壊、寛文8年以後それまでの石垣を地中に埋めこんで現在の石垣が再建された。石積み最盛期の切り込みはぎ布積みで、天端の「扇の勾配」などに技術の片鱗が覗える。後ほど下から最高傑作の北面石垣に注目したい。

\*「本丸北壁の石垣モデル」史蹟看板＝

仙台市は老朽化した仙台城本丸跡の石垣を丸6年かけ全面的に解体・修復しました。この石垣モデルは江戸時代に築かれた石垣の石材で、破損のために再利用できなかった石を用いて積み上げたものです。

切り石整層積み(布積み。寛永以降)＝石切り場で規格された大きさの石材を調達し、石積みの際に石垣の横方向の目地が通るように積まれた「切り込みはぎ」ともいわれる技法です。

かど石、かど脇石、築石、敷き金、こっぱ石、介石

\*「築城期の石垣モデル」史蹟看板＝

本丸北壁石垣の全面的な解体工事により、伊達政宗が仙台城を築城した時期の石垣が地中から発見されました。この石垣モデルは埋め戻された石垣の構造を再現したもので、石質の同じ石材で積み上げています。

野づら積み＝石材の表面を加工することなく、自然のままの石やあら削りした石を用いて積む技法です。築石、詰め石、裏ごめ石

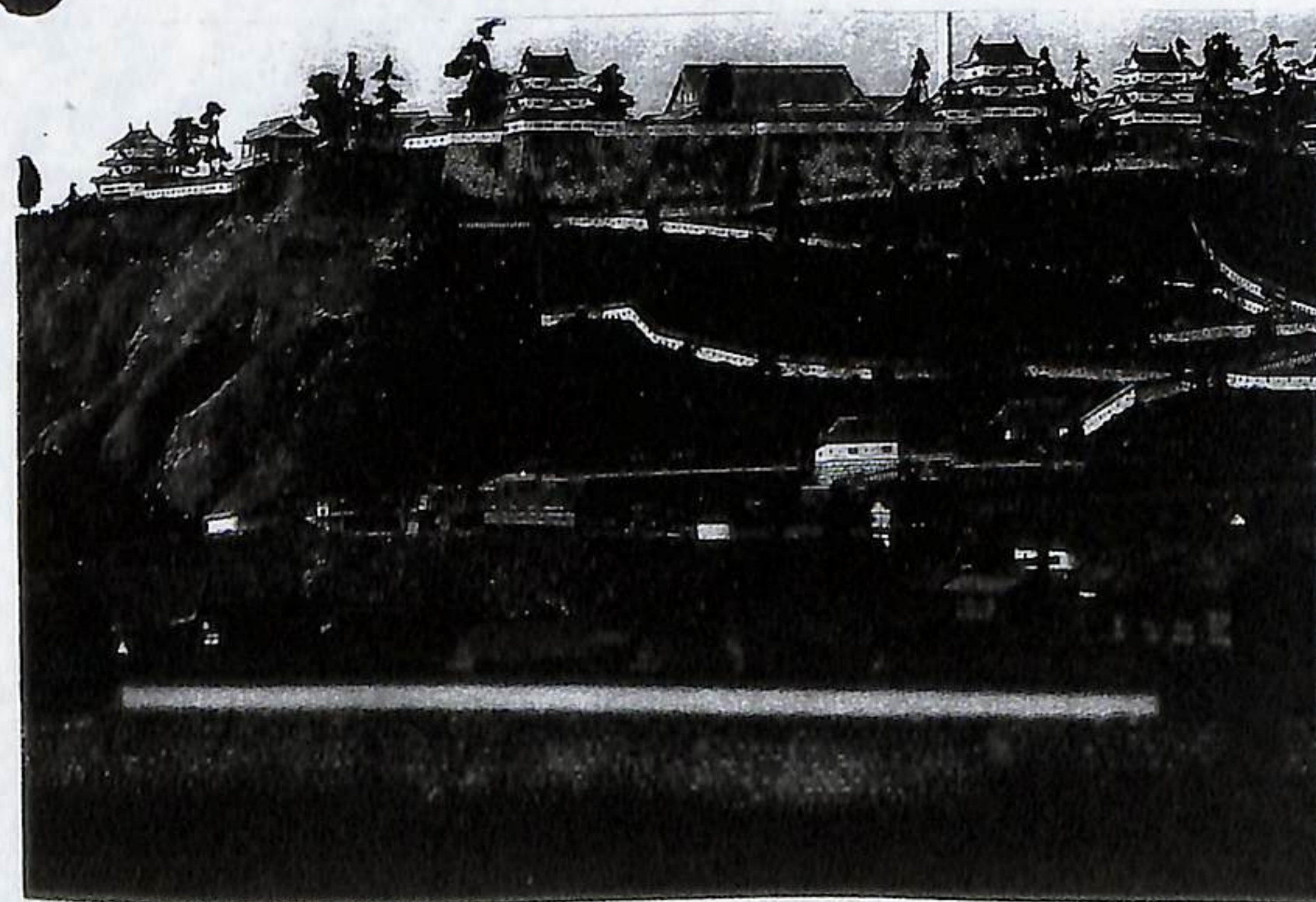
⑪本丸御殿大広間跡(発掘調査にもとづく平面配置表示)

慶長15年に完成した本丸の中心建造物。大広間は俗に「千畳敷き」と称されるが、仙台城の大広間は畳敷き部分が260帖、縁部分を含めると430帖分となり、最大級の規模であったことがわかる。方形の主屋に北と南に曲がり屋がついた複雑な棟構造で、その中心は上段の間、上々段の間、孔雀の間(中段)、檜の間(下段)で、式台の鹿の間、車寄せで軒唐破風のつくもみじの間、中門廊を備えている。上々段の間は天皇、將軍の御成りを想定している。

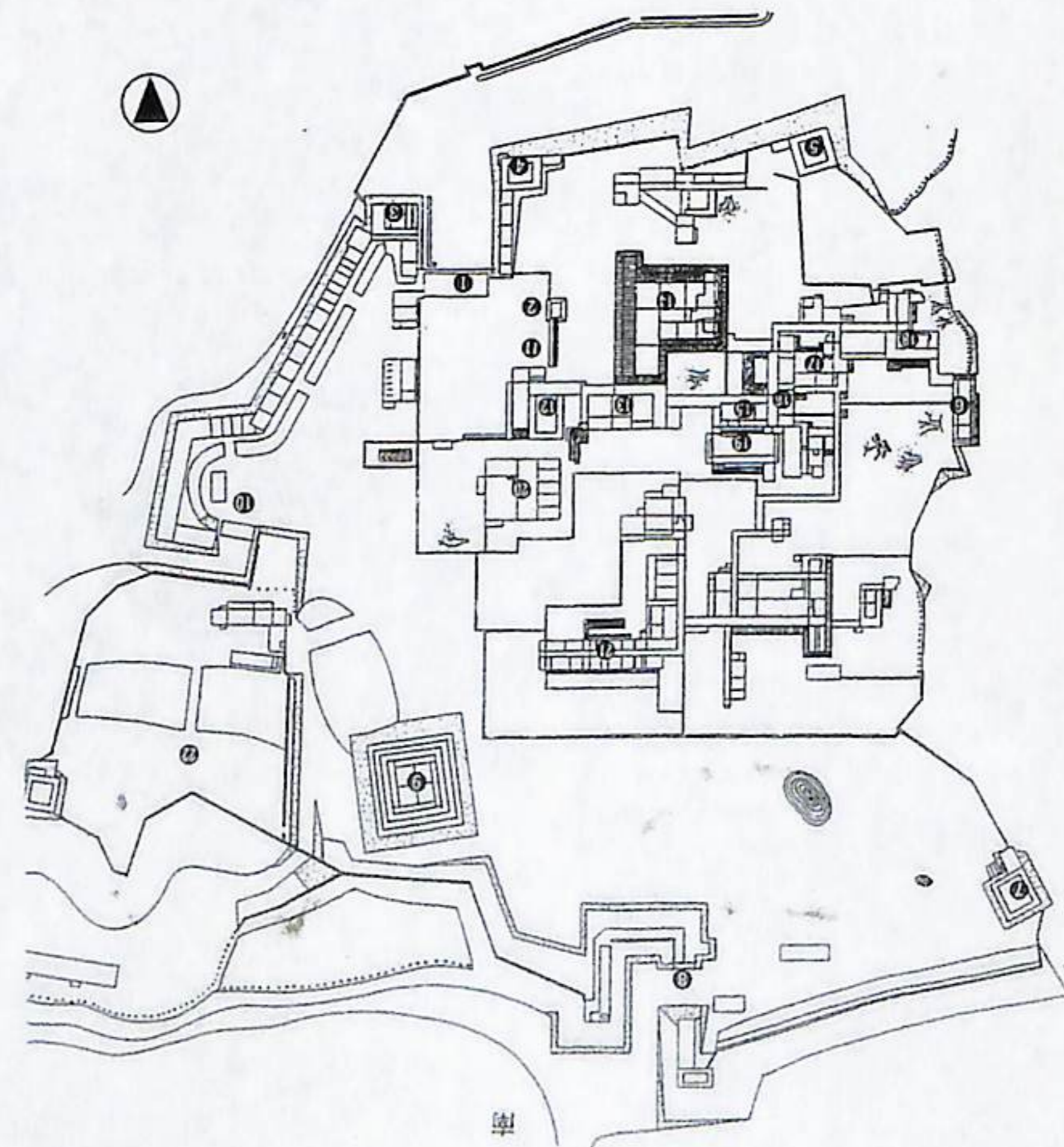
⑫ガイダンス施設・仙台城見分館＝

小休止をかねて自由見学。仙台城の概要や関連資料、大広間模型、政宗が座った上段の間床の間復元などが興味深い。現地ボランティアから詳しい説明をどうぞ。

⑬詰めの門東西脇櫓、御成り門



仙台城模型



3) 織豊城郭の本丸「山城」を歩く

①第2日は早めにホテルを発って仙台城をめざす。

②バスは広瀬川大橋から城内へ、車窓の見どころは

広瀬川の守りと河岸段丘を利用した本丸絶壁、大手門、本丸石垣など。本丸前面に切り立つ高さ17mの北壁高石垣直下を通過、「扇の勾配」も美しい「切り込みはぎ」、西の丸側石垣は野性的で荒々しい「打ち込みはぎ」が入り混じる。

今回の見学コースにない清水門「野づら積み」を加え、石積み形状も見逃せない。

③本丸、西の丸を迂回、南側「埋み門」跡から本丸へ、「青葉城駐車場」で降車

④仙台城見学時間120分。小休止をはさみ大手門方向へ徒歩移動

注意事項＝仙台城の見学は前半が本丸ですが、後半は大手門、3の丸方面に徒歩移動します。乗車地が変わりここには戻ってきません。ただし前半でリタイヤされる方は、この駐車場から乗車ください。バスと連絡を取り合うので必ず連絡の上行動してください

⑤本丸＝広瀬川青葉山丘陵河岸段丘、海拔117mの山上平場に立地する伊達政宗築城の山城で、東西135間、南北147間をはかる。東前面は広瀬川に落ちる70mの断崖、南は深さ40mの辰の口の浸食溪谷に守られている。大規模な造成で平場を築き、南側に土塁、比較的ゆるやかな北側には高さ17mの高石垣を連ねた。また、尾根続きの本丸西側御裏林も城地で、大規模な堀切りや土塁、本丸水源などが確認されている。

\*本丸は政宗時代の居城で、2代忠宗以降は2の丸に本丸機能を移して詰めの丸とした

⑥青葉城資料館、宮城県護国神社前を通過。

\*護国社＝明治維新前後から国家のために殉難した人の霊を祀る神社

⑦かつて、通路右手は本丸御殿の奥向きと私邸・中奥跡で、政宗は普段ここで起居した。本丸御殿は江戸後期まで存在したが、明治維新後に払い下げ、取り壊された。

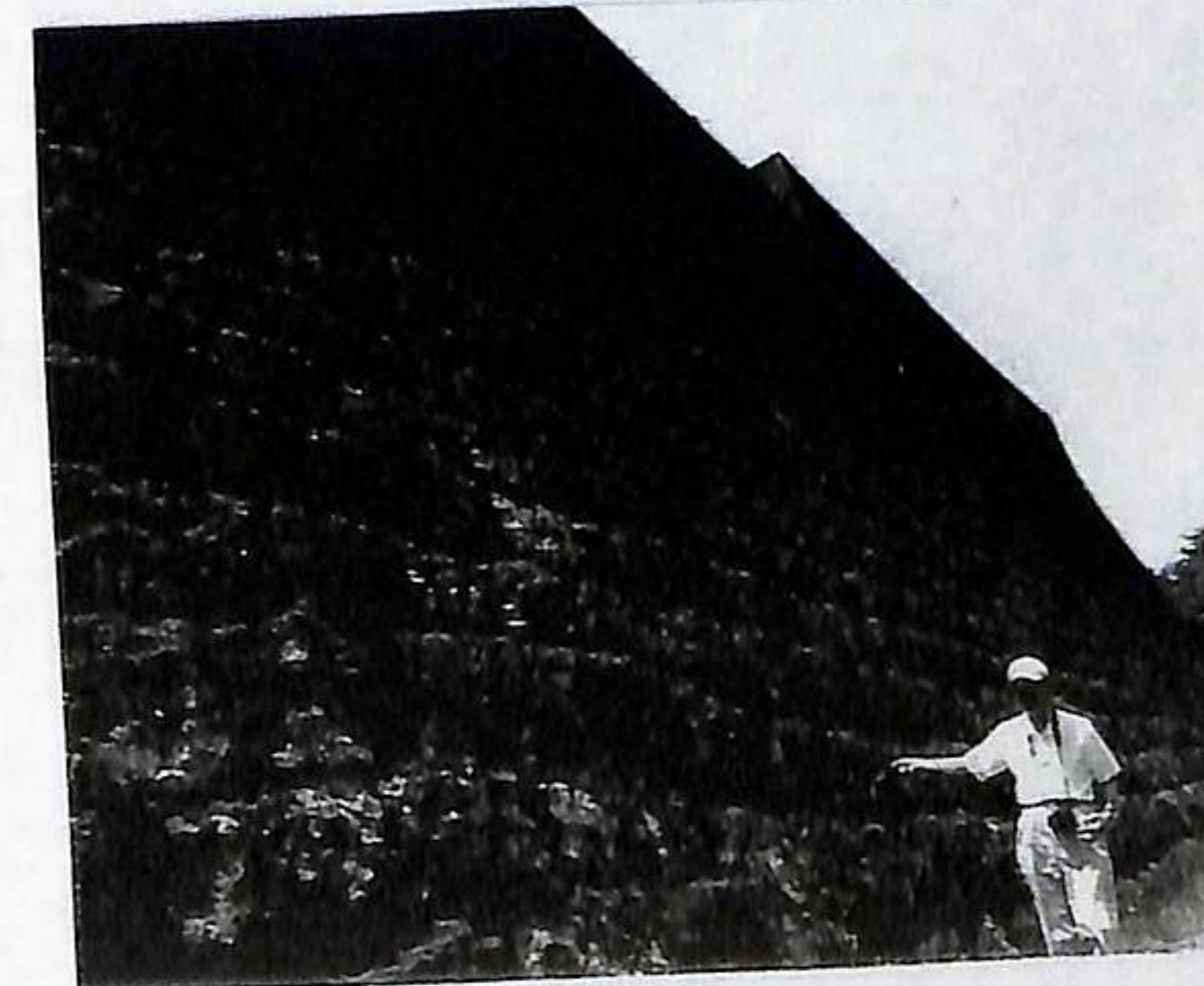
⑦天守台＝政宗は仙台城建設にあたり天守を構想した。天守台を築きひな型も作ったが、深慮遠謀、家康との関係重視の思いか、うわ物を上げないままで終わった。現在も計画地には天守台の呼称が伝わる。

⑧伊達政宗像＝かぶと姿もりりしい騎馬姿で城下を睥睨している。

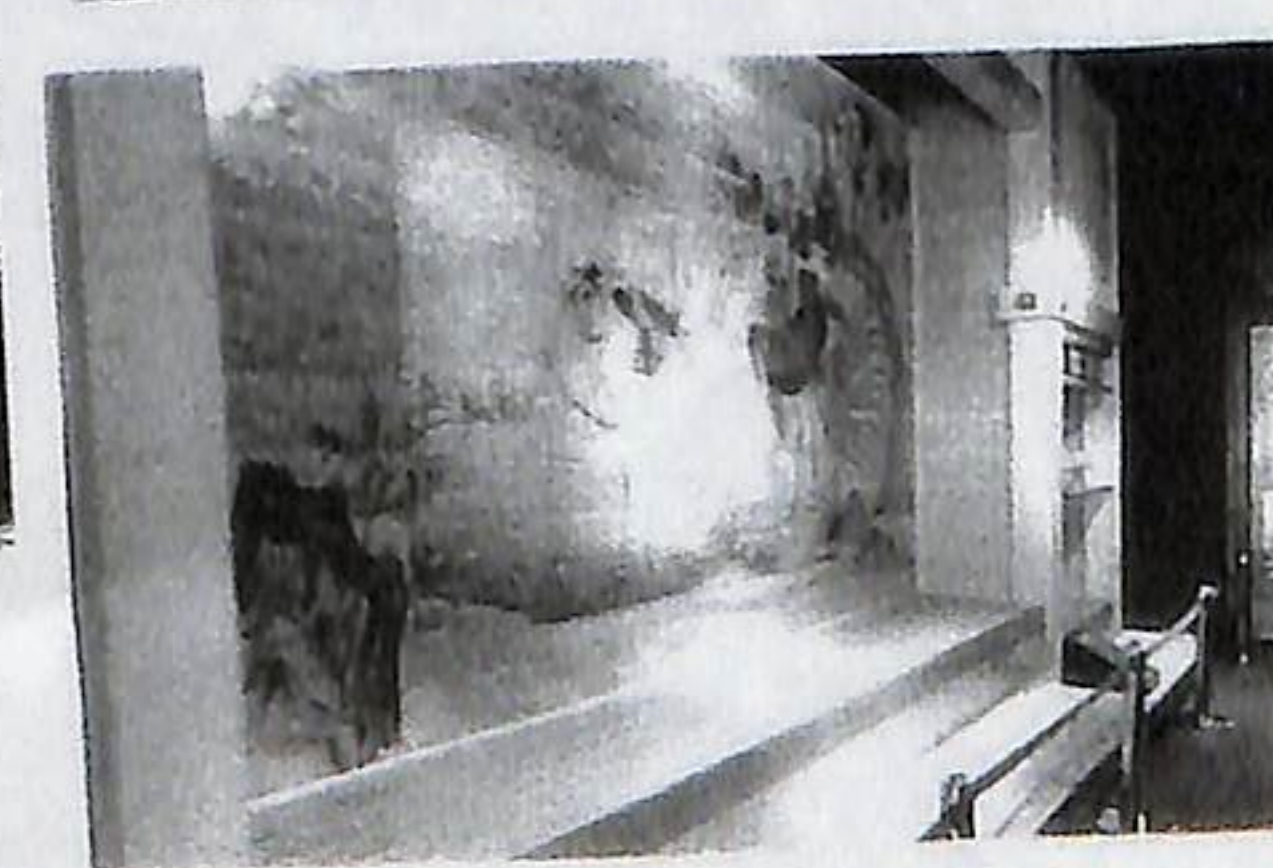
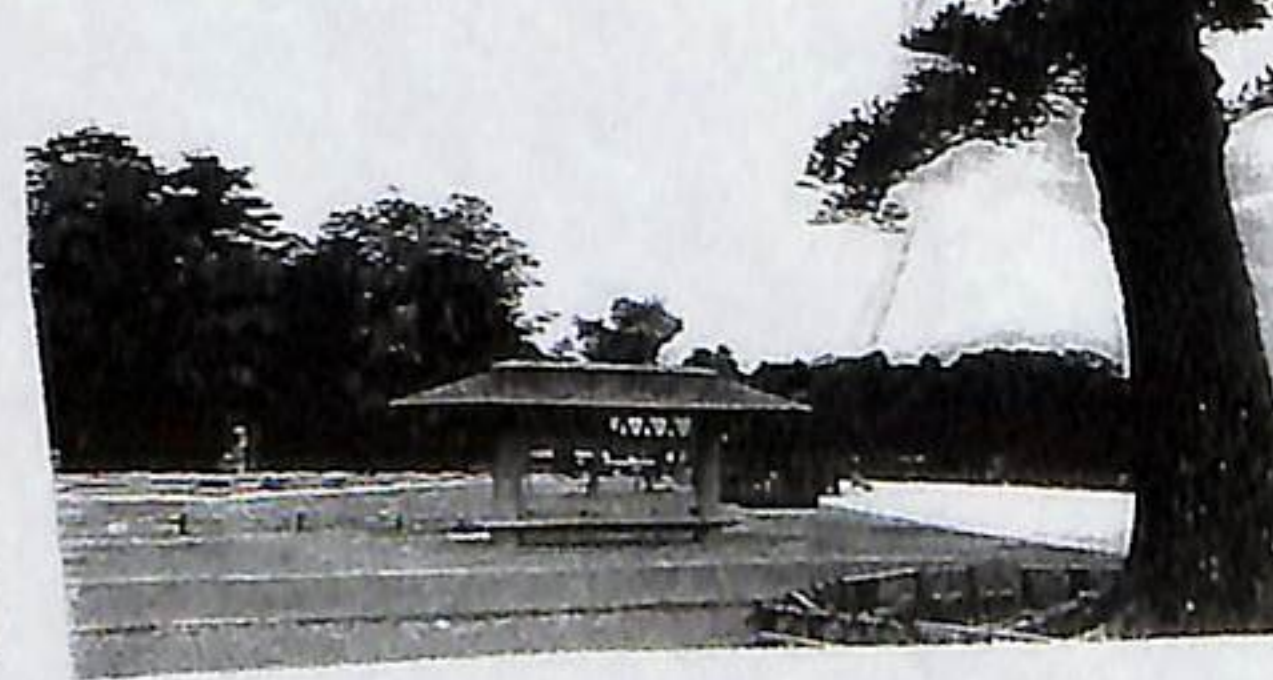
\*島崎藤村詩碑、土井晩翠「荒城の月」詩碑

⑨かけ造り＝天守のない仙台城にとってその象徴ともいえる展望台。

本丸前面の断崖に大きく張り出し、建物の床下にはそれを支える長い床束を建てた。有名な京都清水寺の舞台造りと構造は同じ。仙台藩大工棟梁千田家に伝わる建物図などによれば、屋根大入母屋造りこけらぶき、軒唐破風、間口10間～11間、奥行き2～3間の細長い建物で、前面は板敷き縁、一段下に「すのこ引き通し欄干あり(すのこ縁)」とする。室内から見下ろす城下も、城下から見上げるかけ作りも絵のような絢爛さであったに違いない。かけ造りも明治はじめに撤収された。



本丸北壁石垣





\*「懸（かけ）造り跡」史蹟看板＝

かけ造りは仙台北丸うしとら櫓と巽櫓の間に位置している。およそ現在の土井晩翠歌碑付近と推定される。壁に突き出した数寄屋風書院造りの建物で、「仙台北丸および江戸上屋敷主要建物姿絵図」でその様子を知ることができる。構造は京都の清水寺本堂の舞台に類似している。初代藩主伊達政宗のころより記録にある建物で、眺望を活かして賓客の招待などにも使われた。安永4年の記録によれば、長さ9間半、横3間の規模であった。かけ造りは伊達氏の建物に特徴的で、戦国時代に伊達氏の居館があった米沢城の庭園にも「御かけ造り」と称する建物が存在したと伝えられている

⑩うしとら櫓跡＝本丸うしとら（北東）に建てられた3重角やぐら。慶長6年に建造、正保3年地震倒壊し、以後再建されることはなかった。

⑪北面石垣を上からみる＝

本丸北面は大手道にあたり、比較的なだらかなことから嚴重な石垣を囲んだ。石材は三滝安山岩で、本丸からおよそ3～5kmはなれた大へた、ハナコスリ、国見峠、大石が原などで採取、広瀬川の沢に沿って仙台北丸へ運ばれたと推定されている。慶長6年の築城工事では1万個を超える石材が使用されており、輸送に領民の多くが動員された。当初石垣は野づら積みであったが、元和、正保期大地震で崩壊、寛文8年以後それまでの石垣を地中に埋めこんで現在の石垣が再建された。石積み最盛期の切り込みはぎ布積みで、天端の「扇の勾配」などに技術の片鱗が覗える。後ほど下から最高傑作の北面石垣に注目したい。

\*「本丸北壁の石垣モデル」史蹟看板＝

仙台市は老朽化した仙台北丸跡の石垣を丸6年かけ全面的に解体・修復しました。この石垣モデルは江戸時代に築かれた石垣の石材で、破損のために再利用できなかった石を用いて積み上げたものです。

切り石整層積み（布積み。寛永以降）＝石切り場で規格された大きさの石材を調達し、石積みの際に石垣の横方向の目地が通るように積まれた「切り込みはぎ」ともいわれる技法です。かど石、かど脇石、築石、敷き金、こっば石、介石

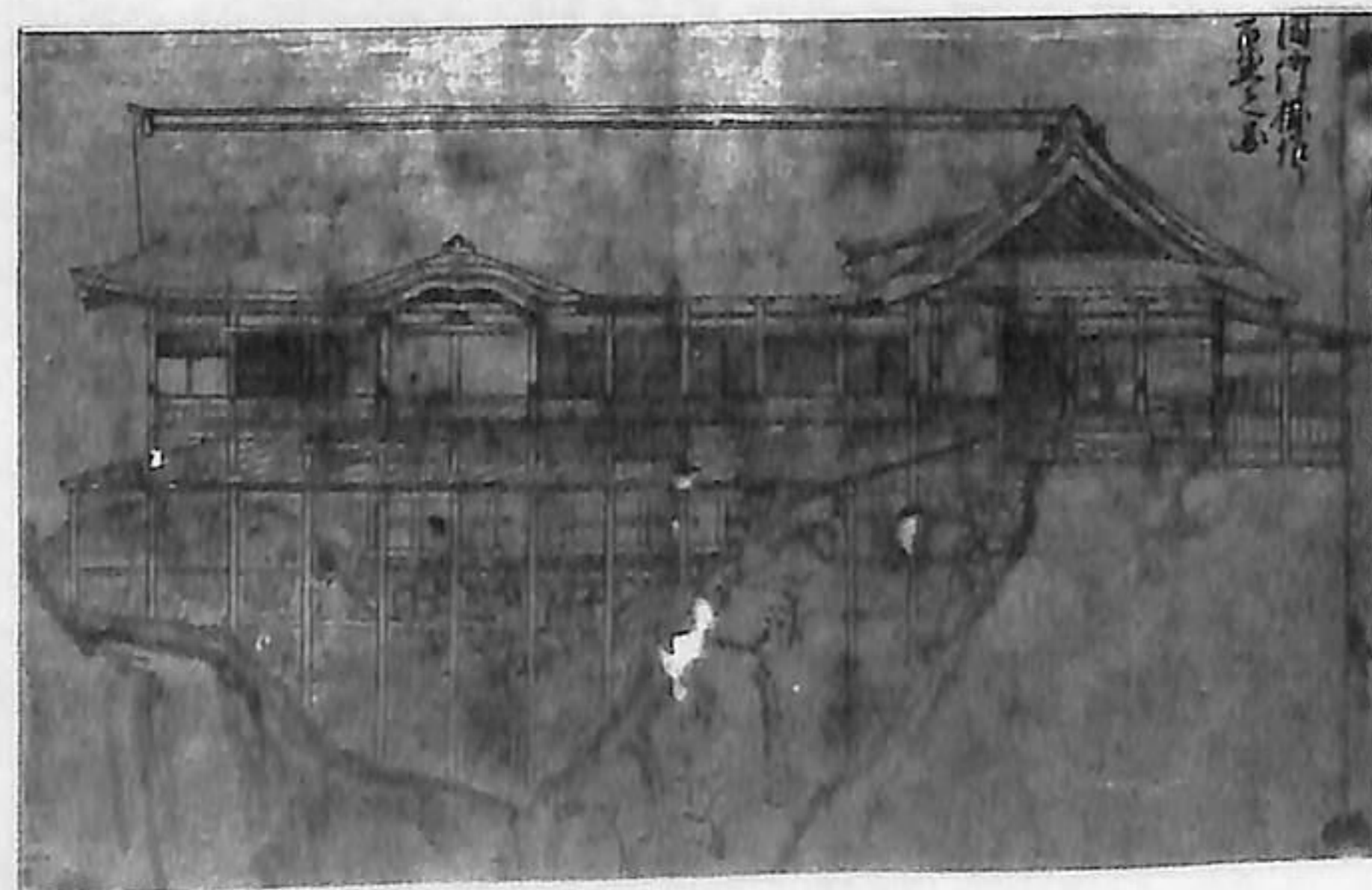
\*「築城期の石垣モデル」史蹟看板＝

本丸北壁石垣の全面的な解体工事により、伊達政宗が仙台北丸を築城した時期の石垣が地中から発見されました。この石垣モデルは埋め戻された石垣の構造を再現したもので、石質の同じ石材で積み上げています。

野づら積み＝石材の表面を加工することなく、自然のままの石やあら削りした石を用いて積む技法です。築石、詰め石、裏ごめ石

⑫本丸御殿大広間跡（発掘調査にもとづく平面配置表示）

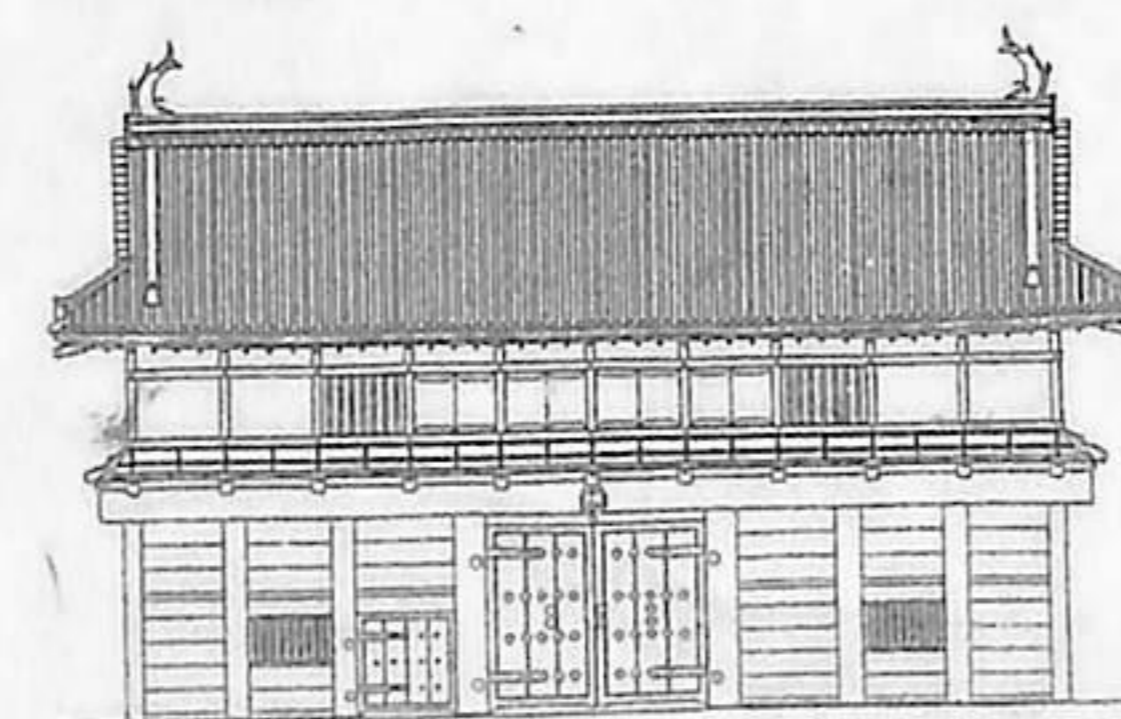
慶長15年に完成した本丸の中心建造物。大広間は俗に「千畳敷き」と称されるが、仙台北丸の大広間は畳敷き部分が260帖、縁部分を含めると430帖分となり、最大級の規模であったこと



本丸かけ造り



7 仙台北丸大広間西面透視図（第二編 仙台北丸跡発掘調査報告書）



本丸詰の門正面図  
はじめ本丸表門、大手の門などと称し、やがて正式には「本丸詰の門」と称する。規模や意匠面で大手門と酷似。慶長時代の創建。

がわかる。方形の主屋に北と南に曲がり屋がついた複雑な棟構造で、その中心は上段の間、上々段の間、孔雀の間（中段）、檜の間（下段）で、式台の鹿の間、車寄せで軒唐破風のつくもみじの間、中門廊を備えている。上々段の間は天皇、將軍の御成りを想定している。

⑬ガイドダンス施設・仙台北丸見分館＝

小休止をかねて自由見学。仙台北丸の概要や関連資料、大広間模型、政宗が座った上段の間床の間復元などが興味深い。現地ボランティアのみなさんから詳しい説明をどうぞ。

⑭詰め門東西脇櫓、御成り門

⑮この後、本隊は登城坂を大手門、2の丸へと下る。

バス乗車までおよそ1時間、後半に備えリタイアされる方があればここで一時的にお別れ、降車地点の駐車場のバスにお戻りください。

4) 本丸への登城道を大手門、2の丸へと下る

①詰め門＝2階建て、櫓門。1階は通路で、2階は射場。本丸正門の厳しい守り。

登り坂石段、左右石垣白漆喰塀から銃口、上に3重の脇櫓、強烈な横矢を実感。鳥居は護国神社の参道を意味している。

\*「詰め門跡」史蹟看板＝

仙台北丸は東側が広瀬川に臨む断崖であり、西側を青葉山（御裏林）、南側を辰の口溪谷が囲むという天嶮の要害となっている。この北側には石垣が築かれ、登城口が設けられていた。詰め門はこの入り口に建てられた門で、正保の城絵図によると2階建て瓦ぶきで棟の両端にしゃちがのっていた。左右の石垣間の距離は約195mで、大手門と同じ幅を持つ。門の左右には3重の脇櫓が築かれていた。

②本丸北壁石垣＝圧倒的迫力、高さ17mの高石垣が続く。

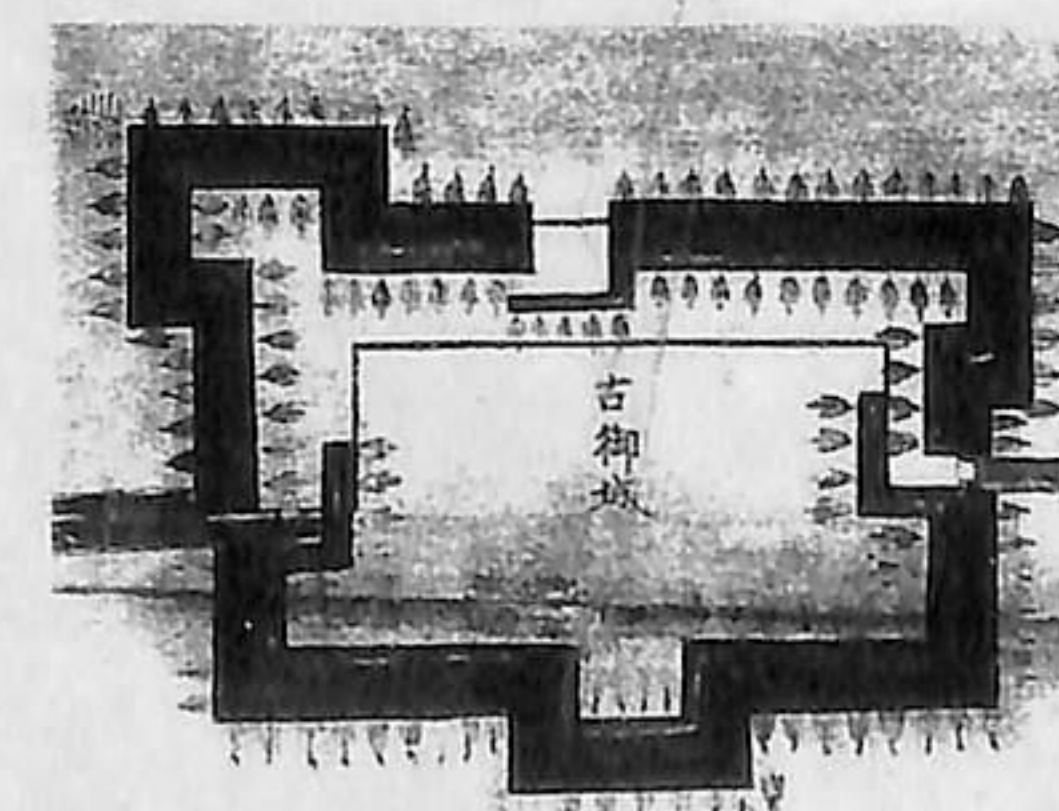
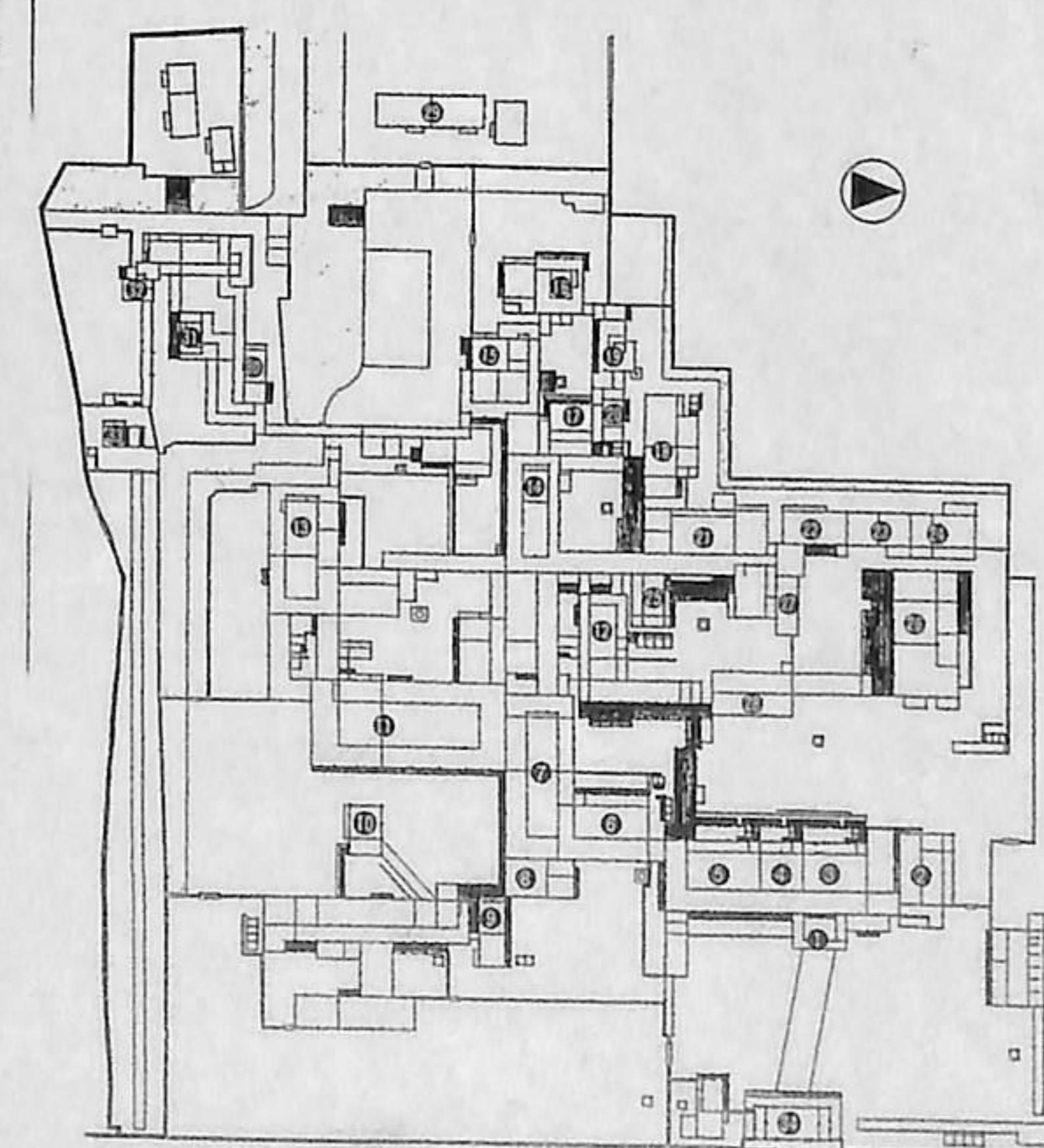
現在の石垣は寛文8年以後の再建、政宗時代のものは角度も緩やかな「野づら積み」であったが、元和2年などに地震倒壊、再建の時、土中に埋め込まれた。近隣の石山から切り出された三滝安山岩を使用、築石表面は長さ60cm、高さ30cm、深さは読めないが間知石風に規格加工された石材を積み上げ、うらごめ石を3層にした「切り込みはぎ」布積みで目地線が美しい。傾斜はおよそ60度で、天端は垂直に近い70度、美しい曲線を画いている。

コーナー部は巨石を積み上げた「算木組み」、最大3尺角×1.7mの角石とやや細見の角脇石を2つから2つ半組みに積んでいる。コーナー部の天端はやぐら台で角櫓や白漆喰塀から鉄砲や弓矢、石つぶてが飛んだ。

\*「本丸北壁石垣跡」史蹟看板＝

本丸北壁石垣は、平成9年から16年にかけての石垣解体修理工事にともなう発掘調査により、

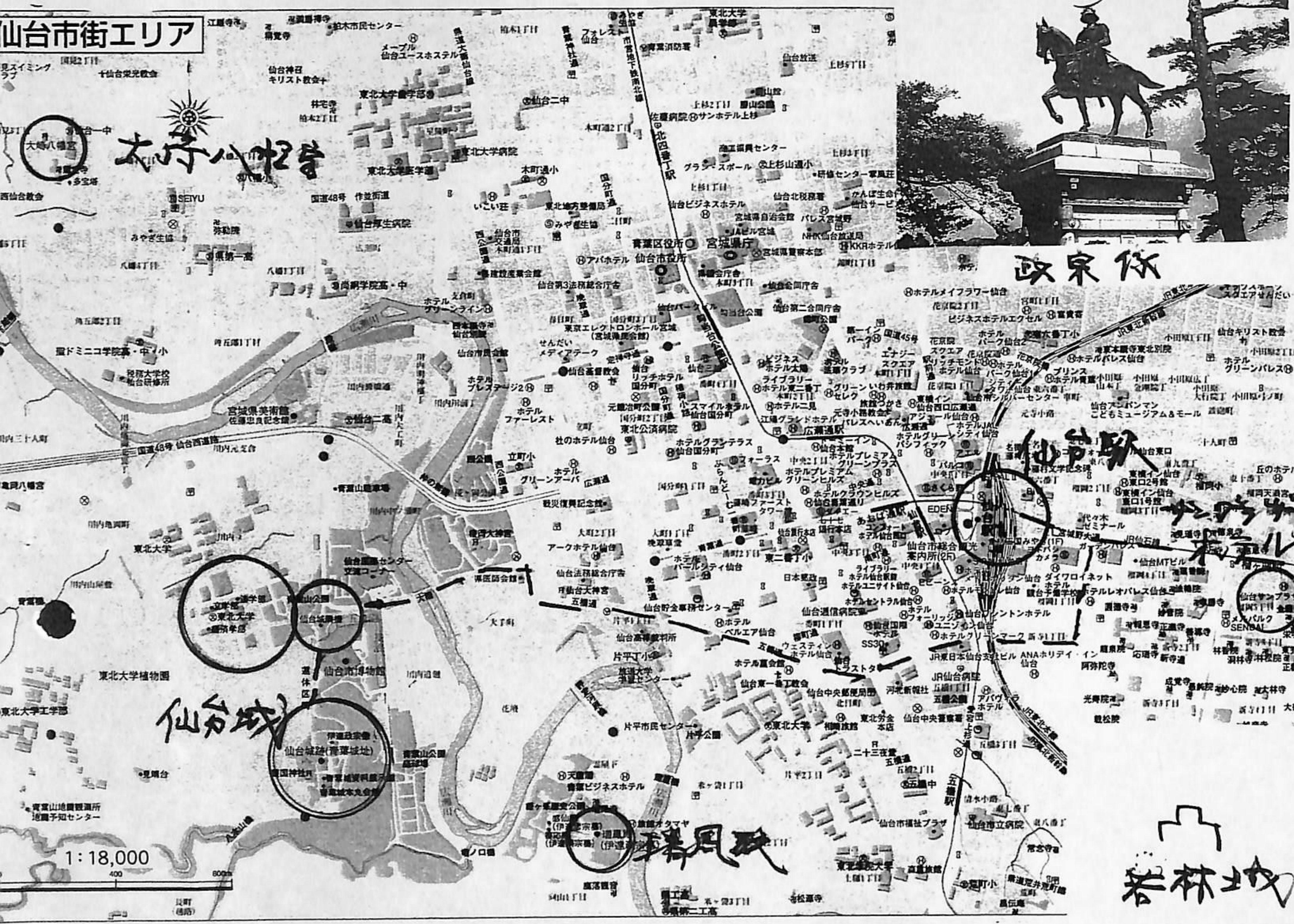
大手門



若林城

← 2の丸竹段





- 伊達政宗による築城後、2回の大規模な改修が行われ、3時期の石垣が重複していることが明らかになった。I期石垣は慶長6年政宗築城期に築かれたもので、旧地形を利用しながら山の傾斜を切り崩し整形したゆるやかな勾配に、自然石を積んだ「野づら積み」の石垣であった。II期石垣は元和2年の地震でI期石垣が崩壊した後に築かれた。(中略) III期石垣は正保3年と寛文8年の2度の地震をへて築き直された石垣でたび重なる地震に耐え、300年以上も持ちこたえた切り石積みの石垣である。
- ③ 沢門跡=3の丸からの登城道。途中清水門の石垣は「野づら積み」で築城当時の面影を伝えている。
  - ④ 中(寅)の門跡=大手門から本丸への登城道に設けられた2階建て櫓門。門は大正時代まであり、現在も道の両側に「切り込みはぎ」の石垣が残っている。
  - ⑤ 五色沼と中島池跡
  - ⑥ 大手門=仙台城の顔ともいえる正門。慶長6年の築城時、政宗が秀吉から名護屋城城門を拝領したとされる。桃山建築の特徴を活かした2階建て、本瓦ぶきの豪壮な建造物で、戦前国宝に指定されたが昭和20年の仙台空襲で全焼した。
  - ⑦ 復元脇櫓
  - ⑧ 支倉常長銅像
  - ⑨ 2の丸御殿=寛永15年2代藩主忠宗により本丸より50m低い平地に造営、江戸時代を通じ、政庁として、また藩主家族の生活の場として明治維新におよんだ。
  - ⑩ 引き続いて政宗以下歴代藩主の眠る瑞鳳殿、鐘崎での昼食の後、震災復興のゆりあげ地区、国宝の大崎八幡宮を参拝して、午後5時30分ころ仙台駅解散となる。

以上

仙台城の案内コース